

第13回 多職種連携研修会「急性期病院のジレンマ・地域の課題 ～病院と地域で対応している困難事例～」アンケート集計結果

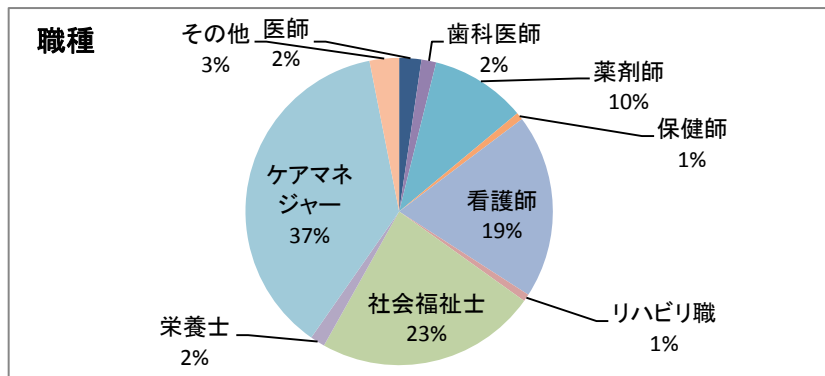
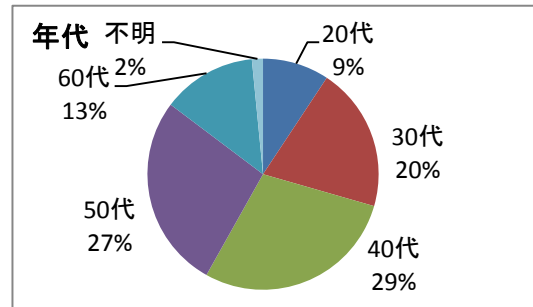
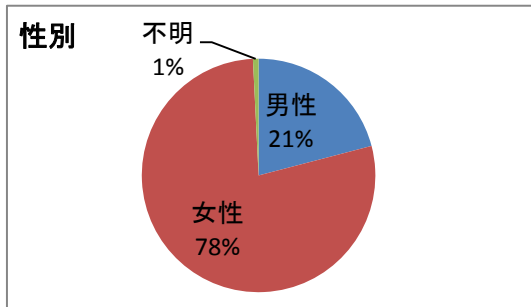
日時: 平成30年3月8日(木) 19:00～20:30

場所: 小倉医師会介護サービス総合センター2階研修室

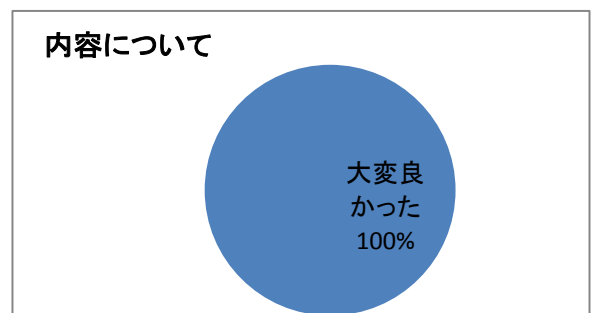
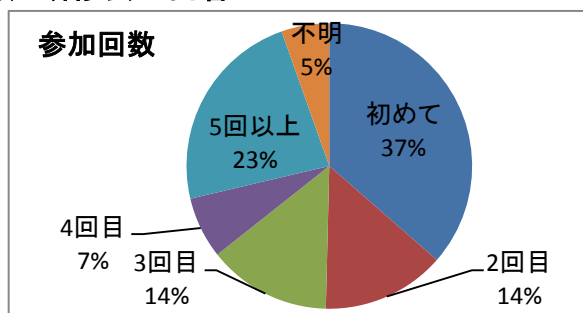
参加: 172名

アンケート回収 129名(回収率75%)

記入者について



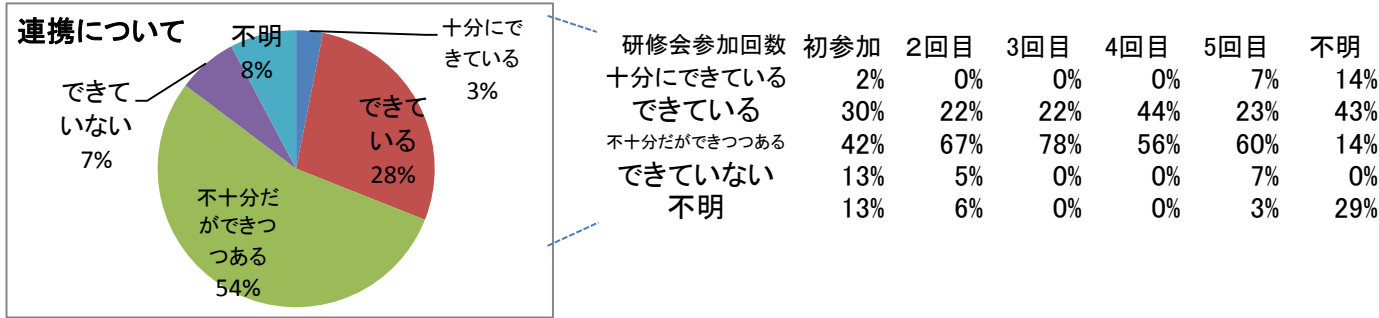
参加回数と研修会の内容について



研修に対するご意見(主なもの)

- ・ 制度など知らないことが沢山あったので知ることができて良かった。
- ・ 高齢者医療問題の切れ目のない支援への重要性等よくわかった。
- ・ 今後も多職種との連携の必要性が理解できた。
- ・ 普段知ることのない急性期病院の医療ソーシャルワーカーの事がわかり参考になった。
- ・ それぞれの職種で抱えている問題。専門分野では判断しかねる。医療だけではなく家族の問題、金銭問題等の事例が参考になった。やはり情報共有とスピード感のある連携の必要性を感じた。
- ・ 急性期病院の抱える問題にどのように対応されているのかを知り、今後の対応の参考になった。
- ・ 病棟看護師としての役割を考える機会になった

多職種連携の実施状況



連携が出来ていない原因、または課題について(主なもの)

- ・ 目先の業務（専門分野のみ）だけでなく他にも視点を持つべきだと思った。まずは良く知ること。（薬剤師）
- ・ 時間がない。忙しい。（介護支援専門員）
- ・ 窓口が不明、現場の看護師や医師が忙しく情報交換が難しい（介護支援専門員）
- ・ 本人・家族の拒否がある際、どこまで介入できるか連携をはかるべき相談先を悩む。（医療ソーシャルワーカー）
- ・ 人員不足と院内の認識不足。（医療ソーシャルワーカー）
- ・ どこがどうサポートしてくれるのか分からない。地域包括などに相談をしても上手く動いてもらえない事がある。（医療ソーシャルワーカー）
- ・ 在宅でできること、家族の希望する部分を一致させる話し合いをする場を入院中の連携室の声掛けで事前に勧めていくことが必要だが、その部分が不十分だとおもう。（医師）
- ・ それぞれの医療・介護・地域スタッフの連携の重要性の認識不足。（看護師）
- ・ 連携方法がわからない。文章を書くのが面倒等。（歯科医師）